

## <中高生部門>

タイトル	良かったところ	改善した方が良いと感じたところ
キミの夢の京都旅行	<p>○起承転結という基本的な骨格がきちんと構成されていて、とにかく読者をエンディングまで一気に引っ張っていくスピード感や、京都という題材が作品全体に行きわたっている点を評価したい。</p> <p>○設定としても現代っ子な雰囲気非常に伝わってきた。年少少女たちだからこそその親友像を非常にうまく表現していた。</p> <p>○章ごとに視点を交える工夫がされており、誰の視点かを明記することで読者を迷わせないように考えられている。読者を飽きさせない工夫として面白かったし、言い回しも独特なものがあった。</p> <p>○作者自身が、この物語を書くことをとても楽しんでやっているということが伝わってくる。楽しみながら創作したのだらうなど感じさせる躍動感に好感が持てる。</p>	<p>○この中学生たちはどこに住んでいて、こんなにも「京都旅行」にこだわる動機付けが不明で、「京都」をとってつけた感がある。</p> <p>○クイズに答える場面で「〇〇目線」と人物が入れ替わるが、これは不要では。誰か一人の目線、もしくは第三者目線で、どんどん仲間がゲームをクリアしていく臨場感が出せればもっと盛り上がる。</p> <p>○冒頭の説明が長く、どういう話なのかはすぐには飲み込めなかった。VRを作っているシーンなどでは具体的な説明がなかったり、雪を助けるシーンでは緊迫感が感じられなかったりしたので、リアリティがなくて入りこめなかった。</p> <p>○登場人物が多いのに、それを活かしてきれていない。各人物にハッキリとした個性を持たせるようにしてストーリーの本筋とは関係ないところの面白さを生み出せばよりよい作品になると思う。</p>
星降の回廊	<p>○七夕と伏見稲荷とタイムスリップという設定がワクワクさせてくれる。七夕伝説の解釈も面白いし、伝説につながるような結末も良かったと思う。</p> <p>○初々しい恋人同士の描写が可愛らしい作品だった。</p> <p>○タイムスリップするために自転車で千本鳥居を走り抜けるというハチャメチャ感は笑えた。</p> <p>○最後に書いてある《ママ》と《パパ》の話も読んでみたい。設定がとて面白く、ずっと楽しく読めた。</p> <p>○中高生部門らしく、甘酸っぱい恋愛がベースとなっており、著者の個性が出ていたように思う。</p> <p>○「面白い小説を書きたい！」という作者の勢いを感じる。</p>	<p>○恋人が狐ということに対しての主人公の反応が薄く、もう少し疑ったり、驚いたりする描写があってもいいのでは、と思った。</p> <p>○ストーリーで大事なところがダイジェストみたいに淡々と流れていった印象があるので、もう少し丁寧に描写をした方がストーリーに深みが出ると思う。</p> <p>○文章が全体的にごちゃっとしている感じで読みにくかった。</p> <p>○面白いものを作りたいという意欲を強く感じるが、まずは小説創作の基本を押さえて筋書はきちんと作ること。その上で自分の中に湧き起ってくるありとあらゆるアイデアをよく吟味して筋書に練りこみ、オリジナリティ溢れるストーリーを編み出してほしいと思う。</p>
戻橋の守り狐	<p>○ストーリー展開がすごく良い。優しい文章が進められる物語が、心温まる感じで、のびのび読めた。</p> <p>○輪廻転生のように、同じような状況が家族の内でも繰り返される物語で、神秘的な雰囲気があった。</p> <p>○戻橋を題材にしたところも、京都の日常の雰囲気を楽しめるようで良かったと思う。</p> <p>○登場人物二人の交互の視点でストーリーが進むのはテンポが良く、読者を飽きさせない書き方だった。最後まで破綻なく書き切ったことがすばらしい。</p> <p>○守り狐に関する設定がしっかり考えられており、エピソードも締め方としてきれいだった。</p>	<p>○交互の視点で描くのはいいが、その入れ替わりがあまりにも多いという印象を受けた。入れ替わってそのまま話が進むのではなく少し戻ったところから話が始まる構成がいくつか見られたが、本当に強調したいセリフやいいシーンでその構成を使った方が効果的になると思う。</p> <p>○《カーテンコール》の在り方が唐突で、わかりにくかった。</p> <p>○「野生の狐になって…」というセリフがあったにも関わらず、二人(二匹)はその後人間として生きていって、「晴子」という娘が生まれていることに矛盾がある。</p> <p>○話の大まかな筋は面白いし、起承転結もしっかりとしているので、細かい設定を詰め、作品に反映させることができれば、読者によりすっきりとした読後感を持ってもらえると思う。</p>
約束	<p>○京都を全面に押し出しているわけではないけど、舞台として雰囲気を醸し出すのに役立っていた。</p> <p>○全体的に淡々とした文章が作者のモノローグのよう。文章にスタイルを持っている。淡々と書く中にくすりと笑えるところもあり、楽しく読めた。</p> <p>○京都らしき全開で情景がありありと頭に浮かんできた。そしてそれぞれの地の描写もよくできていた。一文一文ムダな修飾がなくて小気味いい。それでいて、情景描写は的確なので、一つ一つのシーンが思い浮かべやすい。</p> <p>○発想に独創性がある「演劇に生き、演劇を死ぬ」など、何気ない部分の言葉のセンスにも心惹かれるものがあった。</p>	<p>○約束がテーマのはずなのに、途中関係ないエピソードが長く続き過ぎる。</p> <p>○作品全体の長さに対して人物や場所を盛り込みすぎている印象。面白おかしい大学の演劇部の誰かにフォーカスを当てたり、特定の場所で話が進んだりした方がまとまりがよくなると思う。そして、面白いパートと昔の友人との再会を描き分けられていたらもっと良くなっていた。</p> <p>○亡き友人との不思議な再会の場面はもっとドラマチックに描いてほしい。二人の感動の出会いのシーンをもう少し読みたかった。</p> <p>○全体的に第三者目線で淡々と描かれていて、盛り上がりには欠けた。「主人公と幼くして亡くなった友人との話」というよりは「主人公の自分の話」に終始した。</p>

## <海外部門>

タイトル	良かったところ	改善した方が良いと感じたところ
私は知ってしまった。	<p>○科学は人を幸せにするのか、科学者として最も大切にすべきことは何なのか、読者に問いを投げかける。</p> <p>○京丹後の海という設定において核兵器や『人工太陽』の現実を見ることになる展開は、日本海側にたくさん存在する原発への問題提起になっているように思えた。</p> <p>○主人公と母、姉のささやかな日常が丁寧に書かれているので、家族を失うつらさ悲しさに共感できる。</p> <p>○「生きる意味」について誠実に向き合い、答えを書き出そうとする熱意を感じることができる。</p> <p>○昨今の技術進歩のスピード感を考えれば、作中の年号にもある通り5年後には本当にこんなところがあるんじゃないかと思わせるシリアス感を伴っているので、「不気味だけど気が気じゃない」から読者を掴んで離さない魅力があるとはいえる。</p>	<p>○近未来を舞台にしているが、世界観の構築があやふやで心許ない。2025年の暮らしが具体的に描かれていないので、今とどう違うのかわからず未来感がない。</p> <p>○なぜ京都が残ったのか消化不良。残るのが京都でなければならないというもっと説得力のある理由づけが必要だと思う。</p> <p>○主人公が故郷丹後を評して「数学は自然にこそある」と言っているので、清水寺や金閣寺を残すのではなく丹後のみが現存し、そこから生きなおすというラストもあり得るのでは？</p> <p>○なぜ主人公はあの状況で生き延びられたのか？生かされた意味を「知ってしまった」主人公が、自分が理想とする科学者を目指す物語が読みたかった。</p> <p>○キャラクターの個性をもっと強めた方がより厚みのある作品になったのではないかな。</p>